

2016年2月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 今月も景気判断については、「個人消費等の回復に遅れがみられるが、基調的には持ち直している」との判断を継続しました。個人消費が依然盛り上がりを欠き、公共投資も減少傾向が続いています。一方、雇用環境は改善傾向が続いており、観光もオフシーズンながら外国人客の入込みを中心に堅調を持続しています。このため、道北地域の景気は、基調的には持ち直しの方向にあるとみています。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、1月は前年比▲2.1%と引続き前年水準を若干下回る結果でした。婦人服や食料品などが不冴えです。週末の大雪で客足が鈍ったとの声も聞かれました。地域別には、旭川市内のマイナス幅が大きい傾向が続いています。旭川市内の店舗間競争が厳しいようです。
- 1月の新車登録台数は、前年比+5.7%と26年12月以来13か月ぶりに前年水準を上回りました。1月の前年比を「軽自動車を除く車種」と「軽自動車」とに分けてみると、「除く軽自動車」は+13.2%と好調でした。中でも、普通乗用車が伸びを牽引しました。新車投入効果が現れたものとみられます。「軽自動車」は▲6.9%と依然マイナスですが、マイナス幅は大幅に縮小しています。車の売れ行きは決して悪くはないようです。

■観光の動向

- 1月の北海道観光は閑散期で、観光客は夏場に比べると少なくなりますが、ホテル・旅館の宿泊客数の前年比は+9.2%で引続き好調でした。ただ、市内のホテルの稼働率は、ホテル間の競争が増していることもあって、昨年11

月以降3か月続けて前年の水準を下回っています（1月72.9%＜前年76.2%＞）。外国人客は引続き増加しているようです。中国、台湾からの観光客に加え、豪州や欧州からのスキー客も増えているようです。「観光地点動向」をみると、いずれも前年実績を上回っており、好調な入込みとなっています。また、空港旅客数も道北4空港合計で前年比+7.0%（旭川空港は同+9.8%）、国際線利用客数は同+17.1%でした。このため、観光に関しては、引続き堅調を維持していると言ってよいと思います。

■公共投資の動向

- 公共工事請負額は、1月は前年比▲74.1%でした。冬場なので、金額は少ないです。昨年4月からの累計でみると、前年比▲13.6%となっています。前年度の補正予算と合わせた今年度の予算規模が縮小していることから、今年度は減少の方向が続いています。今年度の補正予算を含めた16年度の公共事業に期待する声が聞かれています。

■雇用動向

- 雇用状況を示す指標は、引続きタイトであることを示しています。12月の有効求人倍率は、旭川が1.00倍（前年0.86倍）、稚内は0.93倍（同0.82倍）、北見は1.00倍（同0.97倍）、網走は1.00倍（同0.98倍）でした。

■今後のポイント

- 全体の基調に変化はありません。
- わが国全体をみると、中国や新興国経済の先行き不安などから、年初から株価下落、円高が進行しています。1月29日の政策委員会で日本銀行は、「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」を導入しました。当地でも、金融市場が不安定な動きを続けていることや中国経済の先行きが不透明なことに不安を漏らす声も聞かれています。もっとも、これまでのところ、当地経済に目に見える形で影響は出ていないようです。中国人観光客が減っているといった声もあまり聞きません。

- 今後、道北地域の景気全体が着実に回復していくためのポイントは、やはり個人消費の動向です。新車登録台数がプラスに転じるなど、よい兆しもみられています。目先は、今春の各企業の賃上げの動きを注視したいと思います。

以 上